

新型コロナ第5波 未経験の感染拡大 “救える命”を救うために

尾身茂（新型コロナウイルス感染症対策分科会会長）

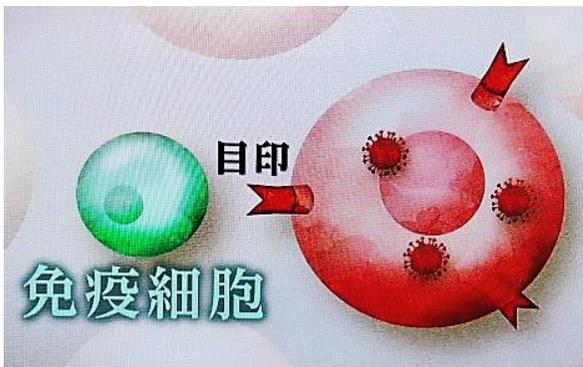
ワクチン接種だけでこの危機を乗り越えられるか？ワクチン接種は重要な柱ではあるが、①デルタ株の感染力の強さ、重症化率の高さ、②若い世代にワクチン接種が進んでいない状況では、ワクチン接種だけではむずかしい。従って、人流の減少で接触を減らすことが大事である。

デルタ株についての知見

日本では、従来株から 2021 年 4 月からアルファ株となり、7 月からデルタ株となり 8 月現在 89%を占めている。イギリス・スコットランドでは、デルタ株は従来株の 1.85 倍重症化率が高かった。ワクチン接種が普及する前にデルタ株が流行していたら、医療崩壊が起こり多数の犠牲者がでただろうとアジス・シェイク教授（エジンバラ大学）は語っている。国際医療福祉大学成田病院でも、デルタ株と従来株の病気の進行について違いを指摘している。従来株は、発症から入院が必要な症状が出るまで7日間とされていたが、デルタ株は平均3日で入院となる。発症から数日で重症な肺炎に至る。アルファ株（英国型）よりも速い。

デルタ株が免疫に与える影響について

（東京大学医科学研究所）



ウイルスが細胞に感染すると、細胞は表面に目印を突き出し、自分が感染していることを免疫細胞に知らせる。免疫細胞はこの目印を目当てに感染した細胞を破壊する。デルタ株が感染するとこの目印が変化して免疫細胞が見つけにくくなるので、免疫細胞の攻撃を困難にすることで、体内で増殖を続ける。

重症化するもう一つの理由は、感染した細胞は形がゆがみ周囲の細胞とくっついて塊になりながら破壊される。従来株は小さな塊であるが、デルタ株はより大きな塊となり、多くの細胞が破壊される。この現象（重症化する原因）は、**P 681R 変異**という、たった一箇所の遺伝子変異が原因である。

南米でワクチンが効きにくいという**ラムダ株**が発生した。感染が広がるとウイルスの毒性は弱くなっていくという従来の考えは当てはまらず、この1年半の間でウイルスの目線からいうと進化がつづいている、まだまだおさまらない状況にあるといえる。

デルタ株は従来株に比較してはるかに強い感染力を持っている。感染症の専門家から見るとまるで異なったウイルスのように考えられる程であるという。これまであまり見られなかったところでも感染が見られるようになった。10代以下に感染の広がりがみられるようになった。職場や家庭の感染も以前より起こりやすくなっている。飲食店のみならず、デパ地下などでもクラスターが発生している。

これまでと同じ対策だけでは通用しない。自分で自分の身を守ること、身近な人を守る行動をとってほしい。

尾身氏の提言として、①検査の充実、飲食店の認証制度、②メッセージの出し方 何故やるのかという説明をしっかりと国民に納得してもらえるようにすることが大切、③人流を減らす環境作り 感染リスクが高い所・わかっている所の人流を徹底的に減らす。

後遺症について

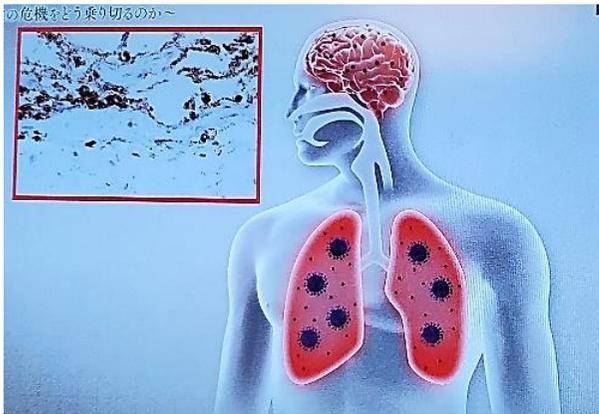
聖マリアンナ医科大学コロナ後遺症外来の土屋知也医師によれば、外来受診者 170 人中 70 人が後遺症のため業務変更や休業を余儀なくされたという。受診者は 20 から 50 代。症状は、倦怠感、臭覚異常のほか、めまい、脱毛、頭痛、不眠、呼吸困難、吐き気、味覚異常、喉の痛み、気分が沈む、筋肉の痛み、やる気がない、咳、忘れやすい、動悸、胸痛、不安など。



都立駒込病院感染症科部長今村顕史医師によれば、後遺症は若い人に多く、倦怠感・味覚障害・臭覚障害・脱毛が多く、何時治るか分からないことから、不安・睡眠障害が起こるという。

ブレイン・フォグ (脳の霧)

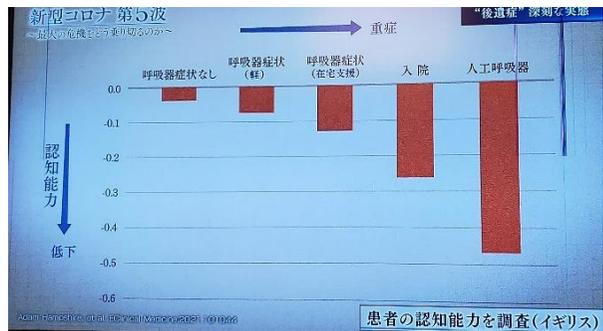
ノースウエスタン大学の調査では、後遺症を抱える 150 人を調査したところ 8 割以上がブレイン・フォグであった。ノースウエスタン大学イゴール・コラルニク教授は、「神経系にこれほど症状を引き起こすウイルスに出会ったことはありません。今後後遺症に苦しむ人が世界で数千万人に上ることになれば、世界の労働人口に重大な影響を及ぼしかねない」と警鐘を鳴らしている。



ネイチャー 2021 に発表された論文によれば、「コロナで死亡した人の脳内にウイルスが存在しないにも関わらず、脳内に炎症が起きていることが分かった。肺内のウイルスを攻撃する免疫細胞から放出された物質が血流で脳内に運ばれ脳細胞に炎症を引き起こしたと考えられる。」

スタンフォード大学アドリュー・ヤン研究員は、「私たちは脳は異物が入らないように保護された臓器だと考えていましたが、新型コロナウイルスは、脳まで傷つけるのです。」と語っている。

脳への影響は、重症患者以外にも表れることが分かった。英国で行われたコロナ患者の認知能力の調査結果によれば、重症度が高くなる程認知能力の低下は大きくなるが、呼吸器症状がない患者や呼吸器症状が軽い患者でも低下が認められた。自宅療養患者にも認知能力の低下が認められた。それがどのくらい続くのかは不明である。



米国でも、新型コロナウイルスの33%が何らかの後遺症を抱えていたという報告がある。

今後の取り組み

英国ジョンソン首相は、「屋外での集会の人数制限を撤廃する」方針を示した。屋外でのマスク着用、人との距離の確保、在宅勤務の推奨など、ほぼすべての規制を撤廃した。今後は、個人の責任において感染防止に努める、経済活動を再開させながらコロナとの共生を目指すという。

イスラエルは、「60歳以上の高齢者に3回目の接種を行う。2回目の接種から5カ月以上たった人を対象とする。一人でも多くの命を救うために、やれることは全てやる」という。

尾身会長は、「集団免疫は、全国民の70%以上がワクチンを打てば、残りの30%の人を守る。ワクチン接種が完了すれば、その後の生活が変わるのかを政府が示す。今までとは違う新しい光が見えてくる」と語った。

(NHK スペシャル、文責 五十嵐隆夫)